

2018年10月31日

資料室だより 112

資料室では亡くなられた演奏家や音楽関係者の方々の遺品を託されることがたまにあります。最近の例ではチェンバロの芝崎久美子さんなど。

このたびは2013年にすい臓がんで亡くなられた、リコーダー奏者でチェンバロ製作者でもある柴田雄康氏のお宅からヘルマン・シャインの **Banchetto Musicale** をいただきました。柴田さんは聖グレゴリオの家で真夜中に行われるクリスマスコンサートで演奏していただいたことがあります。彼は日本の古楽の黎明期に「東京リコーダーカルテット」を結成し、1975年にはブルージュの国際古楽コンクールで優勝を果たしておられます。このように日本の古楽界に刺激と励ましを与え続け、なおかつチェンバロ製作者としても活躍しておられました。美大のご出身なので楽器に施された絵も魅力のひとつです。その柴田さんのお宅にあった楽譜を1冊いただいたということで彼とグレゴリオの家とのささやかな絆が保たれた思いがします。

さて、いただいた楽譜は重要なのにうかつにも当館には所蔵していなかった **Johann Hermann Schein (1586-1630) の Banchetto Musicale(1617)**です (London Pro musica edition)。

シャインは初期バロックのドイツ人作曲家、バッハへの道を用意した人として敬虔なルター派のコラール編曲などでなじんでいらっしゃる方も多いかと思いますが、世俗舞曲なども残っていて、この「バンケット・ムジカーレ」は大変愛好された有名な曲集です。日本でも古楽愛好家なら誰でも手にしたことがあるのではないのでしょうか。4声～5声の器楽合奏ですが楽器は特定されていませんので自由な組み合わせでもコンサート(同属楽器アンサンブル)でも楽しめます。

Banchetto Musicale というのは「音楽の饗宴」という意味あいです。シャインは圧倒的に宗教曲が多く、教会音楽作曲家のイメージが強いのですがこのような楽しい舞曲も残しているのです。当館には **Hortus Musicus** のシリーズにパート譜が抜粋ですがあります。合わせてご利用ください。

あらためて柴田さんのご冥福をお祈りいたします。

杉本ゆり記